

# PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

令和 1 年 5 月版

## 第 26 回依存問題対策プロジェクトチーム

開催日時 令和 1 年 5 月 25 日（土） 午前 10 時 30～午後 12 時 30 分

開催場所 TKP 上野駅前ビジネスセンター 7A

出席人数 メンバー 7 名、賛助会員オブザーバー 1 名、合計 8 名

出席者 &lt;サブリーダー&gt;

荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役

&lt;メンバー&gt;

阿部 到 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 部長

玄 昌起 株式会社ダイナム 営業推進部 業務担当

須藤 暁 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当

佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 部長代理

武田 裕明 株式会社ニラク 法務部

武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 営業支援部 兼 監査室 課長

&lt;賛助会員オブザーバー&gt;

伊藤 真祐 株式会社 DMM.com 第一営業本部 アミューズメント 事業部 渉外統括補佐

### 1) 法律問題研究会・依存問題対策プロジェクトチーム 平日開催のお願い

掲題に関して、加藤英則代表理事より下記概要の文書が届いた。

記

法律問題研究会、依存問題対策プロジェクトチームでは、担当者が平日は業務多忙の為、土曜日に開催されてきた。

本年 4 月より施行されている「働き方改革法」では、有給 5 日取得義務化、労働時間把握義務、残業時間の上限規制などが定められており土曜日開催は時流に逆行している。

また、本年 6 月からは PCSA 事務局員も 4 人から 3 人に減り、業務の効率化、経費削減が求められており、休日出勤手当に配慮して全ての業務を平日に集約したいと考えている。

今後、平日に開催する事を検討、可能な月から開催曜日を平日に改めていただきたい。

<意見>

- ・平日開催で参加人数が増える可能性がある。
- ・本人の意志で出席するというよりは、企業がメリットを考えて出席させているという面が大きい。
- ・土曜日開催で継続するのは、代休が取れない人や出にくい人もいると思うので、元々無理がある。
- ・今期のメンバーは、土曜日参加を前提として選んでいる可能性がある為、そこを考慮すべき。
- ・実際に参加出来る方の意見で決めてほしい。
- ・参加できない人が増えて質が落ちて、参加する魅力がなくなるのが懸念。

<結論>

- ・依存としての意見をまとめて、一旦辻リーダー預かりとする。 ※当日、辻リーダーお休み。

- ・（当日午後開催の）法律問題研究部会の意見を参考にする。

## 2) 第 68 回 PCSA 公開経営勉強会 中村 努 氏 講演について

開催日：令和 1 年 5 月 16 日（木）

時間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分

会場：TKP ガーデンシティ プレミアム神保町 3 階「プレミアムボールルーム」（東京都千代田区神田錦町）

講演：「ギャンブル等依存症対策推進基本計画による相談・治療・回復支援への課題

～ワンダーポートへの相談や利用者の皆さんとの関わりを通して思うこと～

講師：中村 努 様

認定 NPO 法人ワンダーポート 理事・施設長

政府ギャンブル等依存症対策推進関係者会議 委員

### <概要>

NPO 法人ワンダーポートを立ち上げた際の経緯を説明。当初はアルコール依存や薬物依存と同様に「病気」であると認識していた事、多数の依存問題に陥った方々と触れ合う内に「一概に病気とするのは弊害がある」という思いを徐々に強くしてきたことなどを述べた。また、政府ギャンブル等依存症対策推進関係者会議に委員として参加。厚生労働省の「依存症は脳の病気だ」とする根拠の説明を求めたり、政府の基本計画に沿った考え方による支援では救われない人がいる、など現場からの意見を主張してきたと述べた。また、相談に訪れる方々の多様な背景や課題を説明し、パチンコをやめる事を目的とする事によって解決すべき根本的な問題から外れてしまう可能性があるなどと述べた。最後には、実際にギャンブルに依存し問題となった体験者 2 名の方にも登壇して頂き、ワンダーポートの日々の活動や実際に本人がどう感じてきたのかなどをインタビューして締め括られた。

### <意見>

- ・現場目線で対象者を見た上での話なので説得力があった。
- ・政府の関係者会議の内容がリアルに伝わってきたのが特に良かった。
- ・ストレスを解消できるという事もあり、画一的にギャンブルが悪いというものではないというのには賛同する。
- ・聞くのは 3 回目だが、どうしても発達障害にフォーカスしすぎだと感じている。  
⇒ 逆にそこが良かった。
- ・依存している人の中でどの程度の割合の方が発達障害という特性を持っているのかを知りたい。
- ・業界が特性や発達障害が理由だと「言い訳」をしているように捉えられかねないのを危惧している。

## 3) パチンコ・パチスロ依存問題フォーラムについて

開催日：令和 1 年 5 月 14 日（火）

時間：午後 1 時 30 分～7 時 30 分

会場：なかの ZERO 小ホール（東京都中野区中野）

14：00 第一部（対象：安心パチンコ・パチスロアドバイザー）

基調報告「パチンコ・パチスロ依存問題に関する対応の現状と課題」

阿部 恭久 パチンコ・パチスロ産業 21 世紀会 代表

助成金内定式

パネルディスカッション「パチンコ依存相談機関にかかわって」

コーディネーター： 大野 真希 様 株式会社長良川ボウリングセンター

パネラー： 上田 正稔 様 株式会社グランド商事・アドバンス  
 鈴木 智一 様 株式会社マルハン  
 原田 修士 様 光明興業株式会社  
 星野 勝彦 様 フシミコーポレーション株式会社

総括報告 西村 直之 様 認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク

18:00 第二部（対象：一般）

基調報告・事例報告「パチンコ・パチスロ依存問題の正しい理解のために」

西村直之 様 認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 代表理事

事例報告

坂本章 様 日工組社会安全研究財団 パチンコ・パチスロ遊技障害研究会員  
 お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系教授

高澤和彦 様 浦和まほろ相談室 代表（精神科医）

全日本社会貢献団体機構 2019 年度特別助成 4 団体代表者からの事例報告

- ・中村 努 様 認定非営利活動法人ワンデーポート 理事・施設長
- ・梅田 靖規 様 一般社団法人ダルクヴィレッジ 代表理事
- ・中川 賀雅 様 特定非営利活動法人ちゅーりっぷ会長崎ダルク 代表理事
- ・横山 順一 様 一般社団法人むらワーカーズホーム 代表理事

#### <概要>

安心パチンコ・パチスロアドバイザーを対象とした第 1 部の基調講演では、阿部恭久代表が今回フォーラムを開催するに至った経緯を説明した後、パチンコ・パチスロ依存問題対応の現状と課題を報告した。その中で「遊技業界の最も新しい課題は、4 月 12 日に閣議決定された『ギャンブル等依存対策推進基本計画』への対応」とし、業界として求められている主な取り組みを具体的に紹介した。

助成金内定式では、認定特定非営利活動法人ワンデーポート、一般社団法人神戸ダルクヴィレッジ、特定非営利活動法人ちゅーりっぷ会 長崎ダルク、一般社団法人むらワーカーズホームの 4 団体に、2019 年度全日本社会貢献団体機構特別助成の内定証が贈られた。

パネルディスカッションでは、認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク（以降、RSN）へ出向経験のある 5 名が、自身の経験した相談内容などを紹介、他のパネラーからの質問に対応するという形式で意見交換が行われた。

パネルディスカッション後の西村直之 RSN 代表理事による総括報告では「パチンコが他のギャンブル産業と差別化できる場所は、賭博かそうでないかではなく、対人サービスであること。そして依存問題への対応というのは産業の発展や社会に役立つ取り組みである」と話された。

第 2 部では、西村直之 RSN 代表理事が基調報告「パチンコ・パチスロ依存問題の正しい理解のために」を講演したほか、日工組社会安全研究財団パチンコ・パチスロ遊技障害研究会員の坂元章氏（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）と、浦和まほろ相談室代表の高澤和彦氏（精神保健福祉士）が事例を報告した。また、第一部で全日本社会貢献団体機構の 2019 年度特別助成を受けた 4 団体の代表者がそれぞれ日頃の活動等を報告した。

#### 4) ニラク依存対策啓発セミナー『パチンコ「依存」を知り、依存対策について考える』について

開催日：令和 1 年 5 月 15 日（水）

時間：午後 2 時 30 分～5 時

会場：さんかくプラザ 2F 集会室（福島県郡山市）

14：40 第一部

基調講演「パチンコ依存対策の過去・現在・未来」

講師：中村 努 様 認定 NPO 法人ワンダーポート 理事・施設長

政府ギャンブル等依存症対策推進関係者会議 委員

15：40 第二部

公開討論会「依存対策のこれからを考える」

コーディネーター

高澤和彦 様 浦和まほろ相談室 代表（精神科医）

パネリスト

稲村 厚 様（司法書士）

柳内 祐一 様 郡山市福祉協議会

丈幻 代表 JG プロス

吉田 ひろみ 様 株式会社ニラク 法務部カスタマーセンター

#### <概要>

第 1 部の基調講演では、ワンダーポートの中村理事が、いわゆる依存問題に陥っている方に対しては個別の対応と理解が非常に重要だと述べた。なかでも当事者の背景として発達障害（軽度や疑いの方も含む）が深く関係しており、その特徴や特性も様々で一概にこれといった対応方法はなく、病気だからと安易に「病院」や「GA」（ギャンブラーズ・アノニマス：ギャンブル依存者が集まって、お互いに助け合うグループ）を勧めては、弊害が出る可能性を危惧していると述べた。第 2 部の公開討論会では、それぞれの立場で依存問題にどのような視点でどの様に携わっているかが発表された。

#### <意見>

- ・郡山市役所、地元市町村の保険協会、社会福祉協議会、県の精神保健福祉センターなど、地域で活動している方々と協力体制を引けたことが非常に大きな成果だった。
- ・今までは RSN だけ紹介していたが、上記の方々との連携も選択肢として考えられる様になった。
- ・パネルディスカッションに様々な立場の人が参加しており、その視点が非常に斬新で勉強になった。
- ・本当にパチンコに依存していて困っている本人に参加していただけたのが良かった。ホールがこれだけ考えているというのが伝わったら良いと思う。
- ・地元の組織とつながる際に、コネクションと熱意は非常に重要なポイントとなる。
- ・第 2 回を 11 月に開催予定。なお、今回の費用は全部入れて 50 万円。

### 5) ワンダーポートセミナー『マスコミが伝えない「ギャンブル依存症」の話』について

開催日：令和 1 年 5 月 12 日（日）

時間：午後 1 時～4 時

会場：鳩の森愛の詩瀬谷保育園（神奈川県横浜市）

13：00 はじめに 趣旨説明

中村 努 様 認定 NPO 法人ワンダーポート 理事・施設長

13：15 講演「発達障害の視点から見た『ギャンブル依存症』」

講師：朝倉 新 様 新泉こころのクリニック院長 児童精神科

14：30 ディスカッション「『ギャンブル依存症』ってこんなに幅広く多様」

## パネラー

高澤和彦 様 浦和まほろ相談室代表 精神保健福祉士  
 稲村 厚 様 ワンダーポート理事長 司法書士  
 小野寺 正夫 有限会社第一産業 社長  
 山崎 三七子 横浜市こころの健康相談センター相談援助係長  
 相澤 香織 横浜市こころの健康相談センター相談援助係

## ＜概要＞

ワンダーポート入所者 130 名の発達障害診断・診察を行った病院の朝倉 新 院長から見た「発達障害とギャンブル依存の関連性、特性のある人への支援方法について」の講演では、ギャンブル依存が「病気」として世間に告知されると、医療モデルの型に押し込められ、実際には効果の薄い一律の治療を押し付けられて実態との不適合を起こす可能性があることを非常に懸念しており、必要なのは、十人十色の問題に対して、社会で包括的なサポートを実施することであると述べた。また、ギャンブル依存の支援に関係するメンバーによる、「現在のギャンブル依存治療を取り巻く環境、地域・医療モデルによるケアの可能性について話し合うディスカッション」では、現状や今何が出来るのか、今後の見通しなどが発言された。なお、最後には参加者による質疑への応答もされ、全体で 3 パートからなる一般参加者も聴講可能な形式のセミナーであった。

## 6) ギャンブル依存症問題を考える会『ギャンブル等依存症対策に必要な本当の話』について

開催日：令和 1 年 5 月 14 日（火）

時間：午後 6 時～

会場：星陵会館（東京都千代田区）

## 第一部

1. ギャンブル依存症から回復した当事者の話
2. ギャンブル依存者と今は幸せに暮らす家族の話
3. 医療だけで治すことはできないけれど、医療で改善できる大切なポイント  
講師：常岡 俊昭 先生 昭和大学附属烏山病院
4. 地域住民の皆さんが大応援団に！ 軌跡の「山梨モデル」  
講師：池田 文隆 様 グレイスロード甲斐サポートセンター センター長
5. アルコールに学べ！ 自助グループを救う SBIRTS とは何か？  
講師：今成 知美 様 特定非営利法人 アスク 代表

## 第二部

6. ばちんこ業界が打ち出す依存症対策の問題点  
講師：宇佐見 典也 様 作家・コンサルタント/元経産省官僚
7. こんな自治体に気をつけて！ カジノ誘致の甘言を見極めよう  
講師：田中 紀子

## ＜意見＞

・400 人キャパシティの会場に 200 人ほどの参加者でそのほとんどが主催の家族会だった。なお、業界関係者は非常に少なく、政治家は 0 だった。

1. ギャンブル依存症から回復した当事者の話
2. ギャンブル依存者と今は幸せに暮らす家族の話

・1. 2. では、当事者、家族がそれぞれ登壇して実体験を語った。

### 3. 医療だけで治すことはできないけれど、医療で改善できる大切なポイント

- ・精神科医の常岡先生は、医療が出来ることは限られている、ギャンブルは脳の障害だ、自助グループは必須と述べた。

### 4. 地域住民の皆さんが大応援団に！ 軌跡の「山梨モデル」

- ・グレイスロードの話は、地域密着型で回復者も増えており活動拡大の為の予算をとった話だった。

### 5. アルコールに学べ！ 自助グループを救う SBIRTS とは何か？

- ・アルコール依存専門の今成先生が、ギャンブル依存も早期に発見して治療すべきと、アルコールは体が壊れるけれどギャンブルは財布が壊れる、借金の肩代わりはアルコール依存で内臓を直して再度飲酒するようなもので解決にはならないと述べた。

### 6. ぱちんこ業界が打ち出す依存症対策の問題点

- ・宇佐美氏は、RG（レスポンシブル・ゲーミング）はパチンコ業界のどこにあるのか、政府がせっかくギャンブル依存症対策を出しているのにパチンコ業界は何をしているのか、RSN 自体は非常に良いがそれだけではないか、その後はどうするのか、パチンコ業界は遊技とギャンブルの違いを出そうとしているが社会も法律もパチンコをギャンブルだと認めているのだから遊技に逃げ込むべきではない、ギャンブル依存症対策を事業者が実施して良いのか、世界では資金は事業者が出すが第三者が資金を分配して対策を実施している、事業者が対策をするのは利益相反になると述べた。

### 7. こんな自治体に気をつけて！ カジノ誘致の甘言を見極めよう

- ・田中氏はパチンコ業界の取り組みに対して、大阪市ではこういったギャンブル依存症対策を実施しており、競輪ではこうしている、今回の法律では自助グループに対する補助がないため根本的な対策にはならない、パチンコ業界のアリバイ作りに終わってしまうと述べた。
- ・注目したのは、8～9割が自然に回復していると言及したところ。

## 7) リハビリサポート・ネットワークが行う企業研修の公募について

認定特定非営利活動法人リハビリサポート・ネットワーク、西村直之代表より2019年6月以降、21世紀会所属の組合員・会員企業のうち、希望する企業からの職員研修を受け入れたいとの申し出があり、21世紀会はその公募窓口として仲立ちすることを求められ承認した。令和1年4月26日、21世紀会発第382号として掲題の文書が通知された。

メンバーからは、公募の詳細、費用や背景などについてより詳しく知りたいとの意見が出た。

### 記

研修目的：研修を通して社会そして遊技産業の未来に必要な人材を育成すると同時に、RSN の活動展開がそれに応えられる体制構築への協力を得たい。なお、ぱちんこ産業で働いている方を対象に、一度に受け入れ可能人数は最大3名。

研修内容：

#### 第1ステージ(1か月目)

電話相談を聞く(モニタリング)期間

- 課題1 RSN の事業内容、業務内容、過去の相談事例を理解する。
- 課題2 社会資源を把握する。
- 課題3 精神疾患の症状・傾向を知る。
- 課題4 電話相談の基本的な流れを理解する。

#### ■ 第2ステージ(2か月目)

相談員のモニタリングをうけながら、1日2～3件程度、実際に電話相談対応

- 課題1 言葉遣いや話し方、聴き方、基本的な質問の仕方を習得する。
  - 課題2 問題の背景を捉え、それに対し適切な支援を検討する。
  - 課題3 RSN 電話相談業務の範疇(役割)を理解する。
- 第3ステージ(3か月目)  
単独で電話相談対応
- 第4ステージ(4か月目以降)  
電話相談対応技能の向上、より広い視野での依存問題対策の知識やの取得

備考（条件）：

- 1 21世紀会所属団体の組合員・会員であること。(ホール企業以外も可)
- 2 21世紀会制定の「依存(のめり込み)問題ガイドライン」に則った活動を行う企業であること。
- 3 研修成果は遊技業界を通して社会に還元するものとし、個社の独占的なものとはしないこと。
- 4 研修者は、研修成果の遊技業界内への還元に取り組んでいただくこと。
- 5 研修にかかる諸費用(研修者賃金、住居費、光熱費、レンタカー代等)は、希望する企業側が負担すること。
- 6 原則として6か月以上、同一人物が研修を継続できること(特段の事情がある場合は応相談)。

## 8) パチンコ・パチスロ産業 21 世紀会について

令和1年5月10日(金)に開催された掲題会議の議事録(案)について、内容を説明、情報を共有した。メンバーからは、「(3)健全化推進機構が行う依存防止対策要綱について」で触れられた追加項目の詳細な情報が欲しいとの意見が出た。

### 記

#### (1)第三者機関「パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議」からの中間答申について

4月25日に總山座長から「この中間答申は、限られた資料の中でとりまとめた、あくまでも現時点での見解である。」とコメントを含めて中間答申をいただいた。中間答申には、現行の各取組に評価をいただいている一方、取組状況を客観的に示すデータの不足が指摘されるなどの具体的な見解が含まれていると説明された。

#### (2)ギャンブル等依存症対策推進基本計画について

ギャンブル等依存症対策推進基本計画が4月19日に閣議決定され、21世紀会の取組として2019年度中に対応することを求められている「依存問題対策要綱」の策定であるとの報告がされた。

#### (3)健全化推進機構が行う依存防止対策要綱について

警察庁から、5月7日付で、遊技産業健全化推進機構が行う依存防止対策の実施状況調査における項目の追加やホールにおける対応状況確認等を求める依頼文書が届いた。今回の警察庁依頼文書で提示された調査の趣旨では、ポスター類掲示の現認調査に留まらず、ヒアリングによる実施状況の確認が必要となるものが複数存在し、ヒアリング対象となる管理者やアドバイザーの不在の場合、正確な調査結果とならない恐れがある。そこで、21世紀会として業界統一の「依存問題対策実施確認シート」を作成し、各ホールで毎月1回、同シートの記入と保管、従業員間の共有を図る取組の実施を提案した。また、追加された項目として、「ATM等の設置状況」「依存防止対策についての従業員への教育の実施状況」「適度な遊技方法の案内状況」の3点のほか、広告における「共通標語の活用状況」、「リーフレット等を活用した、RSN、自己申告・家族申告プログラム及び保健所・精神保健福祉センター等の紹介の実施状況」等活動内容の状

況の確認があげられた

なお、実際に調査を受け持つ一般社団法人遊技産業健全化推進機構としては、本調査が 21 世紀会からの依頼に基づき行う調査であることから、21 世紀会から項目の追加等変更の依頼があれば対応を検討するとのことであった。

(4)警察庁との連絡会の実施について、

自民党の「時代に適した風営法を求める議員連盟遊技機基準等 PT」が提言をまとめたが、その中で、「警察当局と業界との協議の場を定期的に設けることを求める」との項目が挙げられており、定期的な連絡会の開催を警察庁に対して要請していきたいと述べた。また連絡会は、当初全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商の 6 団体で人数を絞って行き、状況に応じて 14 団体による拡大会議を行う等、臨機応変に対応していく旨を説明した。

(5)リカバリーサポート・ネットワークが行う企業研修の公募について

本アクションレポートの「7）リカバリーサポート・ネットワークが行う企業研修の公募について」に詳細を記されている企業研修の公募について、現時点で応募はないものの「前向きに検討したい」との趣旨からの問い合わせが数件来ている現状が報告された。なお、21 世紀会からの社員出向は 5 月末で終了する、との報告があった。

(6)その他当面の諸問題について

1 RSN の今後の支援について

RSN 西村 直之 代表より RSN への支援を「寄付」ではなく非課税の「助成」で実施していただきたいとの申し出を内々に頂いた。今後、税務上の問題の有無などを十分に確認した上で相談させて頂きたい、との現状報告がされた。

2 全日本社会貢献団体機構の組織変更について

依存対策に関する助成のウエイトを高める為、同機構は組織変更を実施する予定だとの報告がされた。

3 依存問題フォーラムの状況について

21 世紀会事務局から、5 月 14 日に開催される依存問題フォーラムは、各団体のご協力をいただき、実行委員会形式で準備を進めてきた。500 名の定員中、第一部はほぼ満席、第二部も残り 60 席弱(5 月 10 日現在)の参加状況となっている。なお、フォーラム開催に伴う費用概算については、510 万円弱と見積もっているが、6 月 5 日に開催予定の実行委員会で検討し、費用が確定したら、改めてご報告申し上げるとの報告があった。

## 9) 次回開催

名称：PCSA 拡大法律問題研究部会・依存問題対策プロジェクトチーム in 富山・岐阜

開催日：令和 1 年 6 月 28 日（金）～29 日（土）

開催場所：富山県、岐阜県

※ 依存問題対策プロジェクトチームとの共催。

以上